

IT化で品質向上、 短納期対応力を高める

納期
相談
試作可
小ロット
量産
対応



工程進捗を入力する

業務内
単一装置の連携で
生産効率向上

スチール製オフィス家具の部材を中心に、商業施設什器や医療機器などの部品を精密板金加工で製造する。板金加工にはレーザー加工機やタレットパンチプレスを用いる。どちらか一方の装置のみを用いると生産効率向上に課題があるため、同社ではそれぞれの加工機の長所を活用した複合処理ができる工程を開発した。加工機間の部材移動時に通常発生する加工原点のズレを防ぐ治具を開発、複合加工機を導入しなくても各加工機の長所を生かして高速、高精度で低コストの複合加工を実現した。

強み 生産管理システム 自作で納期短縮

最大の強みは「短納期対応力」。既存の仕事の納期を守りながら、短納期の仕事を割り込ませるには、現在の工程の進捗状況を正確に把握する必要がある。生産管理システムを自社で開発し、全製品の進捗管理を行っている。市販のデータベース構築ソフト「ファイルメーカー」を用いて社内での生産管理システムを開発、運用している。同システムは受注情報を入力すると連動する進捗管理マスターに反映され、生産計画の変更情報が社員各自が所持するタブレット端末で確認できる。各作業者は変更された計画に基づいた優先順位で仕事を進めることができ、納期を確実に守ることができる。

システムを 外販 他企業のIT化を支援

生産管理システムは自社の業務を知り

尽くした社長、社員が一体となって自作しただけに、自社の業務に合ったシステムとなつていく。専門業者が提供するシステムの場合、業務の変更に合わせてカスタマイズするのも多額の費用がかかり、本当に使い勝手の良いシステムにはならない。多くの中小企業がIT化で直面する悩みを解決する事例となっている。そこで橋爪啓二社長は「他の中小企業のIT化を支援する」とし、システムの外販に乗り出した。50万円から（パソコンやネットワーク機器は別途）という低価格で構築でき、活用によって品質の安定化、納期の安定化が図れることを売りに、中小企業への普及を目指している。

今後の展望 セミナーも事業化

精密板金加工をベースに新たなビジネスとして中小のIT化支援を掲げる同社の橋爪社長は「匠を支援する匠になりたい」と口にする。ただ中小企業の経営者にIT化の必要性を説いてもすぐには理解してもらえない。そこで同社ではパソコン活用やシステム構築に関するセミナーを開催して、意識向上から始めている。新たなものづくりの手段として購入した3Dプリンターの使い方セミナーも行っており、さらにメニューを充実させていく。講師を務めるのは橋爪社長をはじめ社員3人。社内での知識共有化という効果も狙いに講師養成を進めている。



社内講師養成のための勉強会

COMPANY PROFILE

精密プレス工業株式会社

大阪
26

当社の 歴史

昭和47年、橋爪社長の父親（橋爪澄夫氏）が東大阪市で精密板金製作所として創業、複写機部品の試作を始めました。昭和56年に大東市に移転、社名を精密プレス工業と改め、株式会社化。その後、大手オフィス家具メーカーとの取引が始まり、成長の基盤を確立しました。平成18年には現在地に本社工場を完成、平成20年にインターネット受注サイト「複合加工専門センター」を開設、受注活動を開始しています。

プレス屋でありながらデータベース構築の技術を持ち、現場の技能とITを融合した新たな価値を創造します。

代表取締役社長 橋爪 啓二さん



■主な事業内容

レーザー加工・複合加工による建築金物等の板金部品加工

■主な取引先（納入先）

建築金物メーカー、商業施設什器メーカー、医療機器メーカー

住所／〒574-0051
大東市新田境町
3-45
TEL／072-873-3226
FAX／072-873-0525
創業／昭和47年3月
設立／昭和56年7月
資本金／2,000万円
従業員／8名

<http://www.hukugou.com/>